

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム 都南太陽荘 秋桜ホーム

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101917		
法人名	有限会社 快互		
事業所名	グループホーム 都南太陽荘 秋桜ホーム		
所在地	〒020-0838 盛岡市津志田中央2-3-20		
自己評価作成日	令和5年10月21日	評価結果市町村受理日	令和6年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当荘はキッチンを挟んで2ユニットが繋がっており、職員や利用者様が交流しやすい環境となっている。両ユニットで朝礼等で互いに情報交換しながら日々の業務をしている。コロナ禍以降、面会や外出の機会が大幅に減り認知症の進行にて介助量が増え、かかりつけ医や訪問看護師に今まで以上にアドバイス頂き医療連携にも心掛けています。ご家族様ともコミュニケーションをまめに行い互いに情報共有するとともに、慣れ親しんだ物を持参頂いたり、通院対応等協力して頂いている。荘の家庭菜園で収穫した野菜を取り入れ入居者様に季節感を楽しんで頂く工夫も行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

盛岡市津志田地区の国道4号沿いにおいて、近隣には小学校、公園、公民館、神社などがある2ユニットの事業所である。法人の基本理念である「尊厳を守る」「共生・協働の精神」「自己実現への導き」の3本柱に加え、「気くばり」「目配り」「心配り」を日常の介護目標に置き、個々の利用者にごどう具現していくのかについて職員間で共有しながら支援に努めている。また、玄関前の中庭での野菜作りや食事の際の盛り付け、後片付けを一緒にするなど、利用者の持つ力を引き出させるよう心掛けている。2つのユニットはキッチンを境に対称的に配置され、職員と利用者が交流しやすく、開放的な雰囲気を感じさせる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年11月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりを大切にご入居者様、当荘関係者が「和」になることを目指した理念を日々共有できるよう全体ミーティングにて唱和し「共有」や振り返りに生かしている。	法人の理念である「尊厳を守る」「共生・協働の精神」「自己実現への導き」に加え、「気くばり」「目くばり」「心くばり」を追加している。毎朝のミーティングで6項目を唱和し、利用者が笑顔で自分らしく過ごせるように職員は日々努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ひばり自治会に加入している。運営推進協議会をはじめ、自治会長や児童民生委員、地域包括支援センター等、地域の様々な資源の活用に取り組んでいる。自治会長の方には緊急連絡網にも加わっている。	自治会に加入し、年2回事業所の広報誌を回覧板の中に入れてもらい情報発信している。コロナ禍で町内行事が中止となっていたが、児童公民館の子供たちが描いた絵を先生が届けてくれたり、子供会の廃品回収に協力するなど、再開の兆しが見えてきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年「介護の日」「家族会」と言った行事を通して認知症への理解を深めて頂けるよう取り組んでいる。(コロナ禍で実施せず)			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し時々の議題やサービスの評価、地域とのつながりについて議論しファイルにまとめ職員も情報の共有に努めサービス向上に活かしている。	年6回開催し、自治会長、民生児童委員、市職員、地域包括支援センター、傾聴ボランティア、家族代表で構成されている。年度初めには警察署、消防署からも出席いただいている。入居者の状況や行事、事故の報告及び活発な質疑応答が行われているほか、委員の方の啓発の趣旨もあって、スピーチロックや身体拘束廃止に関する説明なども行っている。議事録は家族の訪問時など、誰でも手に取れるように玄関前に置いている。	地域の方も参加され、地域との関わりが着実に広がっているのが分かります。今後も報告事項以外の話題提供をされていくことを期待します。また委員として利用者も参加していただくことを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	近年は市職員の方にも運営推進協議会に参加して頂くなど適正な運営・サービスの向上に向けたご指導を頂いている。	運営推進会議の委員に市の担当者が出席しており、その際困ったことなど相談でき、情報が得られやすく、運営に関する指導助言がもらえる関係にある。双方の関係性ができているので、電話等での相談もしやすい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急時以外の身体拘束をしないケアを実施し、ご入居者様の「尊厳」、「安心」の配慮に取り組んでいる。また、運営推進協議会での身体拘束廃止に関する委員会活動内容を職員にも情報をまとめ共有している。	身体拘束廃止委員会は運営推進会議のメンバーが兼ねている。月1回の職員全体会議でスピーチロックを含む拘束に関する内部研修も組み込み、身体拘束廃止に努めている。研修の中で自己点検シートを職員に記入してもらい、その結果を運営推進会議にも資料として提出する予定である。玄関のカギは夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待を防止し、ご入居者様の行事を制限しないよう他ユニットと連携をし、見前警察署や盛岡南消防署との連携にも努め、万が一のエスケープにも備えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域会議等での学習や、研修等で職員間で共有し生かしている。ご入居者様やご家族様のニーズに応じ相談や支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には入居者様やご家族様に理解し納得して頂けるよう説明を行い速やかな入居を支援している。また、退去時の支援やその後の相談など可能な範囲での支援に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の苦言や言葉にならない不満をくみ取り最善の支援法について協議し取り組みに生かしている。また、運営推進協議会や家族会等の第三者の方の意見も参考にしている。	利用者には「今日のごはどうかしら？」などと具体的に聞くようにし、そこから会話を発展させて要望を聞くようにしている。家族には、居室担当が毎月利用者の様子や健康状態を記載した手紙を請求書とともに届けている。また年に1度本人のミニアルバムを作成し、家族に渡している。このような関わりを通して、家族との関係性を保ち、要望、意見を出しやすい環境をつくっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、ミーティング、カンファレンスなどを通して出た意見を業務報告、全体会議等で共有し協議を行いより良い支援活動に取り組むよう努めている。	朝のミーティングや各ユニット会議、月1回の全体会議で職員から出された意見や提案、要望を幹部会議で検討し改善へつなげている。何でも話せる職場らしい雰囲気がある。個人面談も希望者が随時荘長と行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを持って働けるよう職場環境作りの為、日々の業務の中の課題、問題を話し合い、職場環境の整備に務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員にはOJT振り返りシートを活用し、出来たこと、出来なかったことを見える化しその後の指導に生かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	訪問看護事業所看護師と提携し情報交換に努め、より良いサービス提供をするよう務めている。		

**II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援**

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や申し込み時から、当荘への見学機会を設け、ご本人様からの思いや希望を汲み取れるように努め、また、面談や何気ない会話から、その方が「何を求めているか」把握できるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や見学時等に、ご家族のニーズを汲み取り、要望や不安など事例もふまえ、情報共有できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人様のニーズを見極め、その方にとっての最善のアドバイスを心掛けている。また、必要に応じて他のサービスの情報提供も出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができる事を見極め、その方が出来るお手伝いや荘内の仕事を一緒に行い、ご入居者一人ひとりの個性を生かし、充実した日常生活を送れるよう支援する。		

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 秋桜ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様の状況に変化があった場合やご本人からの「連絡したい」等希望があった際には、都度連絡を取り合い情報を共有し、協力して行ける関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(コロナ禍前は)、面会や外出、外泊等、ご本人の希望を少しでも実現できるよう努めていた。現在は電話やLINのビデオ通話等を利用し関係性の維持に努めている。	面会は以前よりも増えてきているが、家族以外の方の面会はみられない。外出できるようになり、馴染みの美容院に出かける利用者は生き生きとしている。また手紙での交流を続けている人もいる。多くの利用者には、定期的に来る訪問理容師が馴染みの人となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝いや日常の創作活動を通して、利用者同士の関わり合いを大切にした支援を行い、利用者同士がコミュニケーションを取りやすい環境作りにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様には、次の受け入れ先の支援後でも相談可能である事をお伝えしている。また、必要に応じ情報提供も行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ち、思いに寄り添い、希望を可能な範囲で具現化し、自己実現へ導いていけるよう努めている。	利用者の表情や動きから感じ取るようにしている。うまく表現できない利用者には、問いかけや具体的な提案をして「はい」「いいえ」で選択してもらい思いを把握するようにしている。個人の生活記録のほか「ユニットノート」には些細なことも記載して職員で共有し、利用者の意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や関係機関の情報提供を最良の支援に活かせるよう努めている。ご本人とのコミュニケーションや日常生活の過ごし方等で生活スタイルをなるべく把握できるよう努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 秋桜ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活より汲み取られたご本人の意向やご家族様からの意向、主治医の意見等から見えてきた課題、提案をカンファレンスで協議し介護支援専門員が中心に介護計画の作成と見直しに取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活より汲み取られたご本人の意向やご家族様からの意向、主治医の意見等から見えてきた課題、提案をカンファレンスで協議し介護支援専門員が中心に介護計画の作成と見直しに取り組んでいる。	入居時に得られた情報などから暫定プランを作成し、入居後「情報ノート」に日々気づいたことや新たな情報を細かく記入し、まとまった時点でカンファレンスにて、ケアプランを見直し、3か月毎に評価している。ケアプランには職員のほか、家族、医師、看護師などの役割も明記し実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活における「気づき」を個別の「ケース記録」、「モニタリング記録」等に記録し、その都度職員間で意見を出し合い、カンファレンスで協議し介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「予防」から「支援」、「介助」、「介護」と個々の利用者様の特性や状態に応じた多機能支援、両ユニット間での協力で行う行事や日常生活支援、都南地区の地域での利便性を生かした支援等柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事を通じて民生委員の方、ボランティアの皆様との交流を図り、充実した日々を送っていただけるよう支援している。また、荘2階を開放して交流の場として使用している。(現在、コロナ禍の為、中止している。)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人の希望に沿った受診支援をしている。状況に応じて複数個所の受診の支援を行っている。	受診は家族の同行を原則としているが、差し支えの場合には職員が同行している。日常の健康管理は委託先の訪問看護ステーションの看護師が週1回行うとともに、荘内の看護職でもある管理者が日々の健康状況に関する相談や訪問看護師、医師との橋渡し役も担っている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 秋桜ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者が精神的、身体的に気にかけている事等を職場内の看護師に相談。また、週1回の訪問看護師からもアドバイスを受けて対処している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関への情報提供、可能な範囲での職員による面会を通して早期退院に向けた支援を行っている。また、かかりつけ医との情報交換を行い、できるだけ速やかに入院、治療できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が入院や治療等を必要とする状態となった際には、それに対するご本人やご家族の考え方を尊重し、その支援のあり方に日常的に取り組んでいる。	重度化した場合や看取りについて、入居時に看取りを行わない事業所の方針を説明し、本人家族の理解を得ている。医療行為が継続して必要になった場合、あるいは看取りが近づいてきたと判断される場合には、事前に家族に説明し、病院・施設等への入院・入所の支援を行っている。かつて看取りを行った際の職員の負担の大きさを考慮し、看取りを行わない方針をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等には、看護師や施設長に報告し、できる範囲の応急処置に努めている。状態によっては、救急車の手配、家族様へ連絡を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に対しての定期的な訓練を実施し、マニュアルに基づいた行動がとれるよう努めている。市、及び消防署からの指示、連携し取り組んでいる。	夜間想定総合避難訓練、火災避難訓練、水害訓練と、年3回の避難訓練を行なっている。避難集合場所は水害では2階、火災では玄関前とし、災害時の避難場所は見前公民館に指定されている。夜間は職員2名のため、地域の人にも協力を得ることが必要と考えている。非常時に備えて飲料水と3日分の食糧、おむつを備蓄している。	避難場所を玄関としているが、地域の避難場所にどう誘導するのかについて、職員間の共有をさらに図ることを期待します。また地域の方への協力依頼は運営推進会議でも話題になっていると思いますが、何を手伝っていただきたいのか、具体的に示すことによって協力が得られやすくなると思われます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに適切と思われる声掛けやコミュニケーション、接遇に心掛けている。また、個人情報に関してはご家族と確認を行い適切に管理している。	利用者さんをお呼ぶときは「○○さん」と呼びかけ、丁寧な言葉遣い、穏やかな口調で接している。食事に遅れる場合にも、本人の気が済むような形で「待ち」の姿勢で接し、一人一人に合わせた向き合い方を心掛けている。会話で本人が避けている話題には触れないように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からご入居者との会話や生活支援を通じて本人の希望や意見を汲み取り必要以上に手を出しすぎないよう気を付け、ご入居者様の自己実現へ向け、日々より良いケアを心掛けて取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲で一人ひとりの生活ペースに合わせた柔軟な支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の気温に合わせた衣類を着て頂けるよう支援している。また訪問床屋を活用しご本人の希望する整容に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等できる事をして頂いている。また、当番表を活用し、皆様にお手伝いして頂けるよう工夫している。	メニュー担当者職員が献立を作成し、両ユニットの職員が協働で調理している。食べやすいキザミ食、カット食なども提供している。当番表を作成し、利用者も食器洗い、拭き、片付けを手伝ってもらっている。盛り付けや調理の下準備を手伝う利用者の方もいる。美味しい食事の中でも、特にチョコレートをまぶしたホットケーキのおやつが人気である。行事食は外注のお弁当で楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合った食事、水分摂取量を日々確認し対応している。食事量の少ない方に対しては主治医等とも相談し栄養補助飲料等の提供も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアを支援し、清潔保持に努めている。必要に応じて歯科受診の検討、通院や往診治療支援に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合ったトイレの声かけを行い夜間はポータブルトイレも使用するなど可能な限り、トイレで排泄できるよう支援している。	大部分の方の排泄は自立しており、一部声掛け誘導介助と、介護度5の利用者1名がおむつ使用となっている。夜間のポータブルトイレ使用は2名でリハビリパンツが殆どである。就寝前のパンツ交換で安眠できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人に合った水分補給の仕方、検討、実施しできるだけ水分を摂って頂くことで便秘の予防に努めている。また調理には野菜やきのこ類等、食物繊維の多い食材を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方のペースにあった入浴の仕方を尊重しながら、楽しみながら入浴して頂けるよう支援している。	入浴は週2回から3回を基本とし、業務の兼ね合いをみながら入浴介助を行っている。その方のペースに合った入浴の仕方を尊重している。入浴を嫌がる方は日を変えて声掛けし、入浴を促している。車椅子の方はシャワー浴としている。入浴では、職員の介助でリラックスして会話がはずみ、昔の歌を歌いだすこともある。身体の状態を観察する機会でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間にぐっすり休めるよう、日中の活動を工夫し、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録、連絡ノート等で情報を共有している。内服時は他職員と声を出して確認する等、誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴等の把握に努め、張り合いのある生活支援に努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 秋桜ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は、ドライブや地域の行事等へ出かけていた。また、ご家族や馴染みの方との外出等にも気兼ねなく出かけられるよう支援を行っている。	感染対策をしっかりと行い、1月には近くの神社へ初詣、春には小岩井農場に、秋にはアップルロードを通るドライブに出かけ、季節の変化を感じ取っている。また天気の良い日には荘周辺の散歩など、外出支援もできるようになった。帰宅願望の強い方にはドライブや荘周辺の散歩に誘い、気持ちを落ち着けるような支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の持参については、コロナ禍で買い物に出かけることができない為、お金の所持はないが、家族様の協力の元、必要な物は購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時には、事務所の電話を利用していただき、ご家族様との会話を楽しんで頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のお花、皆様の写真、創作品等を飾り、天窓からの自然光、中庭に面した窓から菜園の風景を楽しんで頂いている。また空気清浄機や冬季には加湿器を設置し居心地の良い環境作りに努めている。	ホールの天窓から自然光を取り入れ、ホール内は夏はエアコン、冬は床暖房、加湿器、空気清浄機で快適な環境になっている。二つのユニットはキッチンを中心に対称的に配置され、両ユニットとも職員と利用者が一緒に作った装飾品で飾られている。職員のリードで歌唱やゲームでの歓声が聞こえてくる。時間毎のコーヒー、お茶タイムで思い思いの時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの自席のほかにもソファーや他ユニットへの移動も自由に行っている。お手伝いやレクリエーション活動を通して自然とご入居者同士の会話が弾む機会もみられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力の元、ご本人の大切な物や馴染みのある品々を持ち込んで頂き、より安心できる空間作りを支援している。	ベッド、クローゼット、棚が備え付けになっている。夏は扇風機、冬はパネルヒーターで温度調整を行っている。居室内にはテレビ、位牌や写真、家族からの近況の写真など思い思いのものが持ち込まれ、自分なりの居心地のよい居室となっている。	

令和 5 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 秋桜ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人のできることを見極めて、できないところにはベッド手すりやシルバーカーを使用して頂く等できるだけ自立した生活を送っていただけるよう支援している。		